

学校における働き方改革プラン2.0 NEXT（新たな取組）の取組状況 9月時点

現状と課題

●常態化した多忙な日課

週を通して、授業準備、会議、事務作業などが積み重なり、先生方の時間外労働が慢性化している。落ち着いて校務処理に取り組む時間が確保できていない。メリハリのある周時程で余白の創出が必要である。

●柔軟な勤務形態の必要性

ワーク・ライフ・バランスの向上や働きやすさの観点から、早出遅出勤務やフレックスタイム制といった柔軟な勤務制度の導入が求められる。また、夏季においては、熱中症対策が学校として取り組むべき重要な課題となっている。

●計画的な年次休暇の取得

年次休暇の取得は、心身のリフレッシュや仕事の意欲を高めることにつながり、結果的に教育の質の向上が図られるなど、職員と学校相互にメリットがある。取得しやすい職場環境づくりと積極的に取得を促す働きかけが重要である。

学校における取組の検証について

検証1 隔週の午前授業の実施等の効果

- ・各校では年間計画に基づき確実に実施されている。
- ・1学期(4月～7月)の時間外在校等時間では水曜日がもっとも少なく午前授業にした効果が確認できた。【図1】
- ・小学校の特徴として、金曜日の時間外在校等時間が少ない傾向にある。併せて、前年度との比較から、小・中学校ともに減少傾向にあり、取組の成果が表れている。【図2・3】

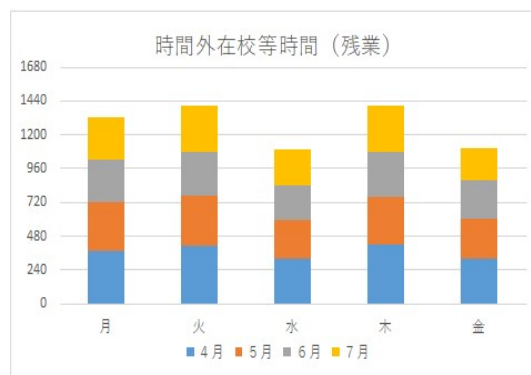


図1 市内小・中学校教職員（令和7年4月～7月分実績）
※曜日ごとの平均値を記載

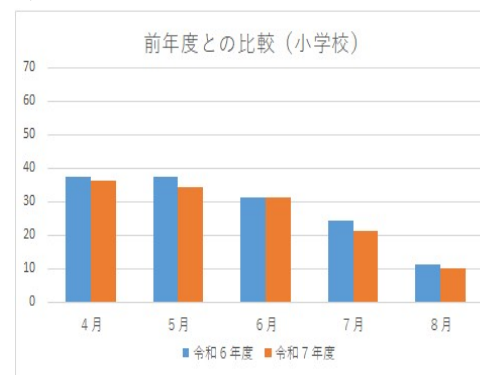
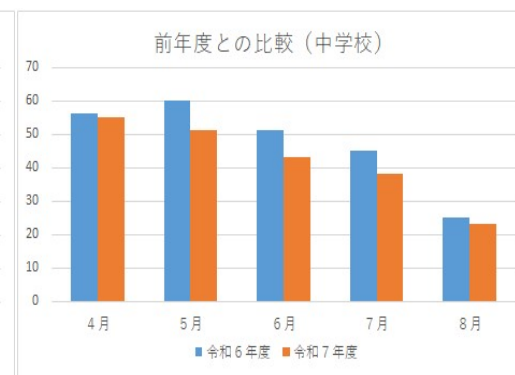


図2-3 市内小・中学校教職員（令和6年度と令和7年度の実績の比較4月～8月）
※教職員一人あたりの平均値を記載



検証2 夏季休業の早出勤務

- ・ワークライフバランスに合わせて勤務時間を選択できるようにするとともに、熱中症対策のための部活動の時間を早めることをねらいとした。

早出勤務を選択した者

小学校 117人中 37人(32%)
中学校 90人中 38人(42%)

検証3 年次休暇の取得率

	学校数	平均取得率
小学校	7	45.2
中学校	5	39.2
計	12	42.7

8月末現在の状況

※年次休暇は一般的に1月～12月の期間で20日間付与されています。

目標達成！

・プランの数値目標
一人あたりの年次休暇
取得率30%以上
すべての学校において
達成できている。